

わか草

第33回 平成27年1月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25



2015年 新春によせて
東京都立東部療育センター
院長 加我 牧子

未年の新年おめでとうございます。都立東部療育センターに入院入所、通院通所のみならずと保護者の方々、そして当センタースタッフ一同にとつて穏やかでかつ、わくわくすることの多い、実り多い年になりますようお願いいたします。

東部療育センターは病院であり、同時に生活の場でもあるという役割を果たしており、医療と同時に暮らしを豊かにするための取り組みには特に力をいれています。昨年の秋の遠足、通称、バスハイクの候補地のひとつに東京スカイツリーがありました。高さ六三四メートルのタワーの、地上四五〇メートルにあるスカイツリー展望回廊からの眺望に思いをはせ、お天気がよくなりますようにと思っていたとき、スタッフのひとり「利用者のみなさんは展望室からの眺めじゃなくて地上からスカイツリーの高さを実感できる方が大事なので、お天気はそんなに気にしなくてもいいですよ」といわれて、はっと思ったことでした。大部分の方たちは車椅子の背をリクライニングした状態で、斜め上を向いた姿勢で移動するので、展望室まで上ってしまうと、スカイツリーの高さは感じられず、見えても空だけ！それよりスカイツリーのふもとから、タワーの高さと空が両方見えるほうが大事！とわかって、違う見方ができることにはっと

し、うれしくなったことでした。

だまし絵

昨年夏、文化村ミュージアムで「進化するだまし絵Ⅱ」と称する展覧会がありました。その後、兵庫県立美術館での展示が終了し、新年早々には名古屋市美術館で開催されるようです。だまし絵とは、見方によってまったく違った絵になったり、一見正しい絵のようなのに、現実にはありえない空間が描かれているような作品をいい、美術の世界ではかなり昔から製作されていたようです。前者は今回の展覧会のポスターにも使われたアルチンボルトの「司書」がたくさんの本を組み合わせて描かれていて有名です。後者ではエッシャーの建物の絵が有名です。人や猫の絵を組み合わせて顔を表示した歌川国芳の楽しい浮世絵も知られています。

人の顔の絵をひっくりかえすと野菜鉢！という「庭師」というこれもアルチンボルトの作品(図)は、顔の研究者の間でも特に有名です。見方によって異なる、錯覚を利用した絵は心理学の領域でもよく研究されているようです。人は丸い輪郭の中に同じ形がふたつならんであると、ともかくそれが顔に見えてしまうという性質があることもよく知られていて、人面石だの人面桜などが話題になるのはご承知のとおりです。コ



右図) アルチンボルトの作品
左図) 3Pコンセント



ンセント(図)だってほら、顔に見えるでしょう？

生活の中で大小さまざまな物事を決めるとき、会議で結論を出すとき、政治がなにがしの決定を下すとき、さまざまな場面で一定の見方に基づいて判断が下されます。決める前にひとつの見方でなくさまざまな見方がある事を理解し、自分でもそれぞれの見方を比べてみて、どれを選ぶか、または組み合わせるべきかという判断が必要になります。今年もさまざまな場面で、いろいろな見方を吟味した上で、よりよい判断ができるように努めていきたいと思えます。今年もよろしくお願いいたします。

Merry Christmas!

三階西



サプライズ!

クリスマス会に向けて活動の中で制作した世界に一つのラスタランブを点灯式でお披露目しました。院長先生にも参加して頂き、参加者全員で点灯カウントダウン！会場全体が盛り上がり、ご家族の皆様からも暖かい拍手を頂



利用者さんを囲んで
加我院長とみんなで
写真撮影
左下) 藤野療育部長

二階南

今年のクリスマス会は「ナと雪の女王」ブームに乗っかり、利用者の「ありのまま」のトーンチャイム演奏と合奏に始まり、雪の女王エルサも登場！エルサの雪の振りかざしに、一瞬凍りつく場面もありましたが、みんなの暖かい心で、最後は熱気溢れる会となりました。



雪の女王エルサとオラフ？
登場に困惑!?

新しい試みとして、一年の振り返りをスライドショーにまとめ、感動あり、笑いありと大盛況でした。

通所

今年、利用者全員出演を目指に行いました。午前の部は利用者、岩崎先生、保護者会会長の挨拶がありました。点灯式では光の妖精が登場し、魔法をかけて五つのリースを点灯させました。保護者出し物では、映像による全員のプレゼントリレーがあり、代表の利用者によるダンスが行われ、会場から「可愛い」と盛り上がりました。午後の部では、ドライバースタタから利用者手作りの写真立てのプレゼントが！利用者の乾杯と共に、美味しいおやつを食べながら、サークル活動の報告ビデオを上映し、盛りだくさんのクリスマス会となりました。



←出演者と保護者
会のみなさん



通所
クリスマス
会の様子→

社会科見学



ディズニーシーにて
(墨東社会科見学)

平成二十六年十月七日にかもめ分教室高等部のみんなと東京ディズニーへ社会科見学に行ってきました。当日は天候に恵まれ、格好の見学日和となりました。学校生活の節目として、日ごろ出来ない郊外での活動を通して社会体験が出来たことはとても貴重で、みんな思いっきり楽しんでいました。

オータムフェスティバル

東部療育センター一年に一度のお祭り「オータムフェスティバル」が十月一日に開催されました。当日はばらばら(乳幼児通所)の皆さんによる演奏会が幕を開けました。午後からは光と音楽のダンスホール風のゲームコーナーや恒例のボランテアによるアトラクションも。「ふるえんぶてい ぶちっ。」の大道芸では職員も一緒に楽しんでみました。また「ミュージックボックス」による演奏会では今年の人気音楽などで楽しめました。最後にグラウンドフィナーレとして療育場で職員バンドによる演奏会があり華やかな雰囲気のまま幕を閉じました。



オータムフェスティバルの様様

右) 「ふるえんぶてい ぶちっ。」の二人と利用者のみなさん
中) ミュージックボックスによる演奏者のみなさん
左) 療育場で職員バンドによる演奏

通所・入所保護者懇談会

十一月二十日(木)に通所者保護者懇談会、二十九日(土)に入所者保護者懇談会が行われました。通所者保護者懇談会には第三者委員の高原氏、入所者保護者懇談会には第三委員の高原氏・須田氏に同席していただきました。

通所保護者懇談会

通所者保護者懇談会には二十一名の家族が参加しました。センターから、来年度の成人通所者の人数増加に伴う通所の体制について、乳幼児通所の開所日を減らして成人通所の一

日定員枠を拡大すること、それにより希望の通所日数を確保すること、全員のバス送迎は難しいが、週五日通所希望者の方には週一日自送迎を条件に受け入れる形となる旨説明させていただきました。ご家族からは、通所の現状をご理解、ご協力いただける声が聞かれると共に、通所人数は年々増加する一方で、今後更なる通所日数の減少が見込まれることへの不安、地域施設や区との連携についての意見も聞かれました。

入所保護者懇談会

入所者保護者懇談会には成年後見人・家族十五名の参加がありました。センターから、二十五年度の福祉サービス第三者評価で今後改善が望まれる点として挙げら

れた三点について、その改善・進捗状況をお伝えしました。具体的には、福祉サービス第三者評価結果は広報紙等で周知を図っていること、災害時の事業計画は作成中であること、人材確保および育成として医学士・看護学生の実習の受入れや認定看護師の資格取得の支援を図っていることをご説明しました。また行事や散歩範囲の拡大についてもお伝えしました。第三者委員の方からは、療育は家族も一緒に創りあげていくものだと思う。より良い施設にしていきたいために、成年後見人・家族はセンターに意見し、コミュニケーションを図っていただければ良いと思うとのコメントをいただきました。

墨東祭



墨東祭に参加した みんなで写真撮影!

かもめ分教室の児童・生徒二十名が、十一月二十八日(金)、二十九日(土)の二日間、本校で行われた

墨東祭に参加しました。舞台発表見学や、的当てやボウリングなどのゲームに参加したほか、カフェでは喫茶体験などができた生徒もいました。また、学習発表会時の映像をカフェや控室で紹介し、多くの方にも見て頂きました。保護者や病棟スタッフの方々、教員とゆったりと本校内を見学し、それぞれが充実した時間を過ごすことができました。

第十回 東京都福祉保健医療学会に参加して

十二月十八日木曜日に東京都文京区で開催されました。東京都福祉保健局による主催であり都立病院に在職する医師、理学・作業療法士、放射線技師、看護師、管理栄養士など多職種が参加し、口頭およびポスター発表されました。療育施設からの発表も数多く見受けられました。当センターからも「重症心身障害児(者)

施設における院内感染の現状と対策について」と題し院内インフルエンザコントロールチーム(ICCT)を代表し荒井康裕医師より発表がありました。日常臨床を通じて得られた様々な課題とその対策、解決策を発表することはセンター利用者への医療サービス向上に寄与すると考えられます。他施設との交流を深めなが

ら充実した一日となりました。当日発表した内容(ポスター発表)

関東・甲信越 重症心身障害児(者)を守る会 千草大会

十月十八日(十九日)において、重症心身障害児(者)を守る会、関東・甲信越ブロック大会が開かれ、シンポジウムとして参加しました。

今回のテーマは、「重症児者が生まれ育った地域で暮らすために必要なことは何か」をテーマとして、重症者と家族、行政、医療、福祉、教育の関係者が一堂に会し、情報や意見を交換を行うことでした。全国の守る会では、入所の家族の入会率が高く八割九割を占めています。東京地区は、約四割の入会者が在宅の方です。最

初に、島田療育センター、施設長の本実谷哲史氏より重症児者の現状と島田療育センターに於ける地域支援についてとのテーマで「島田療育センター五十年のあゆみ」の基調講演がありました。島田療育センターは、日本で最初に認可された小林提樹先生が園長となった施設です。いかにして施設ができたかについての感慨深いお話がありました。

次に、シンポジウムでは行政の立場、短期入所施設の立場、卒後教育の立場、家族の立場からの発表がありました。千葉市においては、親御さんが普通校を希望した場合に、医療的ケアをするために、マンツーマンで看護師をつけていること、修学旅行にも付添いを保障していることなど素晴らしい発表がありました。また、もと特別支援学校の校長として、その後、学校を卒業した人に対して、フリースクールのような形式で、教員のOBが中心となり、NPOを立ち上げていることについての飯野順子氏の報告があり、多くの方が感銘を受けていました。私は、施設の立場から発言しましたが、在

宅を支えるための、安心を提供できる場、また、医療ケアを実際に理解でき、二十四時間支えることができるスタッフを養成することなどについて報告しました。二日間にわたり、三七〇人が参加し、実に熱心に討論を行っていたのが印象的でした。是非、当事者の声、家族の声がわかる場だと思っております。職員に参加の機会があるとういと思いましたが、会に加わる人が一人でも増えることになると感じました。(診療部長 益山 龍雄)

今年度のももめ分教室の学習発表会が小・中・高に分かれてプレイルームで行われ、学齢児達の学習の成果を皆で楽しませていただきました。

乳幼児通所では、初めての試みで施設交流会を行いました。よつき療育園から四名のお友達が来て、楽しい交流ができました。また、病棟のお寿司食べ放題イベントでは、皆お腹も心も大満足。頑張ってくれた給食さんに感謝!

一日はセンターの開設記念日。満九歳になりました。開設記念特別メニューの給食も振舞われました。各病棟、通所ではそれぞれ趣向を凝らしたクリスマス会で、今年一年のお楽しみ行事を締めくくりました。そして、大晦日に恒例の年越し蕎麦をご馳走になって新年を迎えました。馬から羊へのパトントンタッチです。

東部あれこれ

十月から十一月の話題です。

【十月】

オートムフエスティバルから始まった今月は、バスハイクや成人グループの電車を使つての外出、ハロウィンなど色々な行事で楽しみました。

月の前半には大きな台風が二回東京地方に接近しましたが、準備がしっかりできていたので混乱無くやり過ごすことができました。



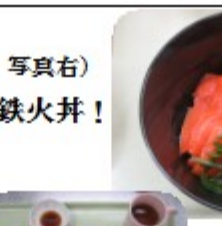
浅草で初めて乗った人力車(浅草にて)

【参加した感想】

浅草で初めて人力車に乗ってきました。青空の下で浅草の町並みを見て回り、始めは緊張していましたが笑顔で楽しんでました。浅草までは電車を利用しましたが、初めて電車に乗る方もいて、貴重な経験ができました。



施設交流会の様子



写真右) 鉄火丼!



開設記念特別メニューの給食

編集後記

「わか草」読者の皆様、明けましておめでとうございます。新春を新たな気持ちで迎えられる事とお喜び申し上げます。東部療育センターも平成十七年十二月の開設から十年目という節目の年を迎え、職員一同が運営を目指さなければなりません。わか草の発行も気を引き締めていきたいと思います。

←これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ



重症心身障害療育学会

十月二日、三日に第二十五回重症心身障害療育学会学術集会が徳島県のあわぎんホール内の二会場に別れ、一〇二の演題が口演されました。私たちは、在宅支援について「重症児(者)通所施設における利用者家族の介護負担の現状と課題」を発表させて頂きました。他職種の方から質問を頂き、同じように保護者との関わり方に悩んでいることを知りました。また、発表後に他施設の方と意見交換できる機会があり、とても勉強になりました。研究の時から、ご指導頂いた先生や上司、通所スタッフやアンケートにご協力頂いた保護者に感謝しています。